えどがわ区議会だより

SDGs中学生議会号

発行　江戸川区議会

https://www.gikai.city.edogawa.tokyo.jp/

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

江戸川区議会は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

議会当日の流れ

- 開　会
- 江戸川区SDGs議員連盟会長 高木ひでたか議員・斉藤猛区長あいさつ
- 中学生議員の質問・区長と教育長からの答弁
- 江戸川区SDGs中学生議会宣言
- 島村和成議長あいさつ
- 閉　会

詳細は区議会ホームページに掲載しております。
右記QRコードからぜひご覧ください。

SDGs中学生議会を開催しました！

令和７年11月８日に江戸川区SDGs議員連盟が主催でSDGs中学生議会を実施しました。

令和３年度から始まったこのSDGs中学生議会は、次世代を担う中学生に区政や議会に対する関心を深めてもらうため隔年で開催しており、今回で３回目を迎えます。

SDGs中学生議会には、全区立中学校とインターナショナルスクールから選ばれた中学生が「議員」として参加し実際に議会を運営します。参加した中学生議員達は４つの地区に分かれ区議会議員のサポートを受けながら区への提言に向けた準備を半年間、着実に進めてきました。

中学生議員達は日常生活で感じていることやまちづくりに対する思いを、SDGsの視点を交えて区長に問いかけました。

江戸川区SDGs中学生議会宣言

○全ての人が安全・安心に過ごせるように、また中学生議会で学んだことを区全体に知ってもらえるように、学校等でSDGsのことを伝え、区民一人ひとりがSDGsのことを更に重視する区を目指していきます。

○SDGsが見据える、区民一人ひとりが過ごしやすく生活できる江戸川区の未来のために中学生議会で学んだことをどう活かすべきかを意識しながら取り組んでいきます。

○SDGsを意識し自然の豊かさを身近に感じられるようなまちにしていきます。差別や偏見をなくし幅広い世代と交流しながら問題解決していけるよう力を合わせて“ともに生きる”江戸川区にしていきます。

○江戸川区を誰一人取り残さない・取り残されない、そして人と人とが支え合い、ともに歩んでいける社会にするために、希望にあふれる未来に向かって行動し続けます。

宣言全文はQRコードからご覧ください。⇒

江戸川区SDGs中学生議会実行委員会

◎区議会議員	小林ともお	区議会議員	勝山まゆみ
○区議会議員	佐野ともこ	区議会議員	佐々木ゆういち
国連の友 Asia-Pacific	金森　孝裕	区議会議員	中野ヘンリ
国連の友 Asia-Pacific	大戸　天童	区議会議員	小林あすか
国連の友 Asia-Pacific	髙島まゆみ	区議会議員	牧野けんじ
ジェイコム東京江戸川局	山崎　孝之	区議会議員	林　あきこ
松江第二中学校校長	鈴木　啓之	区議会議員	五十嵐まさお
葛西中学校校長	荒巻　淳	その他区職員	

◎実行委員長　○副実行委員長

区議会広報委員会　（◎委員長　○副委員長）

◎高木ひでたか　○関根まみ子
笹本ひさし　神尾てるあき　小俣のり子

江戸川区SDGs中学生議会議員

小松川	シヴヌル アリア	清新第二	有馬　伊吹
小松川第二	中塚　昊	瑞江	藤尾　紗希
松江第一	森田　満帆	瑞江第二	永田　芽依
松江第二	千葉　美里	瑞江第三	森本　涼太
松江第三	青山　心優	春江	片山　祥吾
松江第四	新海　莉恵	鹿本	金山　果潤
松江第五	伊藤　清乃	鹿骨	辻田　紗彩
松江第六	山本　愛美	篠崎	横地美羽音
二之江	石井　晴菜	篠崎第二	武藤　秀河
葛西	喜多　敦士	小岩第一	谷部ななみ
葛西第二	中野　博夏	小岩第二	池澤　楓
葛西第三	磯田　怜奈	小岩第三	横尾　湊生
南葛西	長谷川花蓮	小岩第四	田鹿　圭祐
南葛西第二	鶴田　大貴	小岩第五	折本　優純
西葛西	築達　桃花	上一色	吉川　陽菜
東葛西	菊地隼太朗	ＧＩＩＳ※	安藤　厳
清新第一	釣　望叶		

※ＧＩＩＳ（正式名称：グローバル・インディアン・インターナショナル・スクール）

各代表中学生　３３人

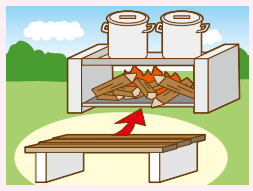
中学生議員からの主な質問

SDGsの考え方、区の施策について学習し理解を深めた中学生議員が、学習してきたことを踏まえ、斉藤猛区長に意見や質問を述べました。ここでは、各地区の質問と答弁の要旨を掲載します。

第１地区

問　災害は予告なく起こるのに学校の避難訓練は予告して行うことに疑問を感じる。いざという時に備え実際に災害が起こった時の危機感を持たせるために、避難訓練は予告なしで実施することを検討しては。

答　事前に訓練の日時や想定を予告する場合と訓練自体を予告しない場合がある。各学校では授業中の発災や非常階段を使用できない時の発災等、様々な場面を想定した訓練を実施している。訓練目的を明確化し、いつ起こるか分からない災害に対して防災意識を高めていく。



問　かまどベンチ等、防災施設の使い方をまとめラミネート加工した資料を施設付近に貼付することや学校等で講演実施の検討を。

答　防災施設設置の際、町会等に利用方法の説明や継承等をお願いするほか各施設の使い方手順を二次元コードで表示している。今後、ラミネート加工した説明書を防災施設に備える等、周知に努める。各施設の利用方法はえどがわ区民ニュースで紹介されており情報収集に活用してほしい。

問　環境をよくする絵画コンクールについて受賞作品の掲示数が少ない。多くの人達の環境について考えるきっかけになるように、学校付近の掲示板等で掲示する等、受賞作品の効果的な活用を検討しては。

答　広報掲示板や区施設等約４０００ヶ所に掲示し、展示会や区ホームページでも紹介している。一部地域では駅のデジタルサイネージでの展示も行われており、今後はＳＮＳの活用等、時代に合わせた発信手段も取り入れて区民の環境意識の向上に役立てていく。

問　自然に恵まれた本区の特徴を観光面やＳＤＧｓ推進に活かすべき。河川を綺麗に保つための江戸川区歩行喫煙及びポイ捨ての防止等に関する条例等の広報等の検討を。条例制定以外の自然保護活動について。

答　条例について区ホームページや都営バス車内の放送等、様々な方法で周知に努めているが、今後は更にＳＮＳでもＰＲしていきたい。河川周辺の自然保護のため区の日常的清掃のほか、ボランティアによるごみ拾いや環境をよくする運動での清掃等が行われている。豊かな環境を次世代に継承するため今後も自然保護に取り組んでいく。

問　犬や猫の保護活動を行っている方に対する補助制度の創設や命を預かる責任についての啓発として、ＹｏｕＴｕｂｅ等の広報を通じた発信を行っては。命に優しい江戸川区となるため、取り組みの検討を。

答　ボランティアの方と協力して地域猫活動や譲渡会を開催し、手術費用や譲渡費用を助成している。飼い主等へ動物の命を預かる責任を区ホームページ等で啓発しているが、今後はＹｏｕＴｕｂｅ等でも伝わりやすい啓発に取り組み、命に優しい江戸川区を目指していく。

問　校則は、生徒が気持ちよく安全安心に過ごすための大切な決まりであると考えるが、各学校で校則が異なる理由や意図は。

答　各学校の伝統に違いがあるように校則にも違いがある。各学校では校則を分かりやすくし、すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、生徒達の実情等を鑑みて毎年校則を見直すこととしている。時代や社会の変化に合わせた校則の柔軟な見直しを支援していく。

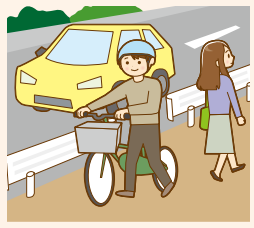
問　生徒から校則変更の要望を聞くが、校則の変更には時間がかかる。校則の変更にかかる期間を短くすることはできないのか。

答　校則は生徒、保護者、地域の方々の声を聞きながら成立していく。その際には多様な立場や感じ方を尊重しながら慎重に話し合うことが必要であるが、合理的な変更等、比較的早く対応できるものもある。生徒会本部役員が皆の声を聞き納得できる校則を作ってほしい。

問　校則を決めるうえで、毎日を学校で過ごしている生徒の意見は大事なものと考える。校則を生徒が提案できる環境を更に整えるべき。学校設備の面で不満な点についてアンケート等を行い、生徒のプライバシー侵害の有無等を確認して設備が使用しやすくなるように改善を。

答　各学校で生徒の声を大切にした校則改善を進めており、実際に委員会等での議論により見直しが行われ制服着用が柔軟化された例もある。設備のアンケート実施は各学校の判断になるが校長会で周知する。

第２地区



問　自転車マナーと安全な通行環境について。
①自転車利用のために整備が進められているブルーレーンについて、カラーコーンを設置する等の対策で車道と区別化しては。区民・警察・区との啓発活動の連携強化で今より安全な自転車走行環境の実現を。
②自転車のルールやマナーをより知ってもらうため、駅等の公共の場に二次元コードで区のサイトを確認できるポスターを設置しては。

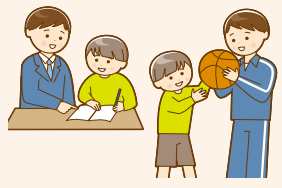
答　①区と警察署ではカラーコーンは安全を確保する反面避けようとして車に追突される等危険があると考えている。今後も自転車のマナー啓発を続け、皆さんとともに安全安心な自転車走行環境をつくりたい。
②区の交通安全情報にアクセスできる二次元コードをより目に付くよう改善して掲載し、設置場所も更に工夫したい。継続的な啓発が重要なため、機会を捉えて自転車マナーの向上に繋がる情報を発信する。

問　新校舎建設の完成が遅れているため、仮校舎の耐久性の問題や、体育の授業等学校生活に影響が出ている。新校舎建設が予定通りに進まない場合と仮校舎での生活が長引く場合どのような対策を行うのか。

答　仮校舎の安全性に問題はないが、必要に応じ修繕等を検討する。今後は建設業界の綿密な調査や適切な期間等の設定で予定通りに工事が進むよう取り組む。対応できる希望は真摯に受け止め検討したい。

問　教員は部活動指導や保護者対応等、授業以外の負担が大きい。校内清掃の外部委託で生徒の負担軽減を。またテスト採点等を外注することで教員の業務量が抑えられ本当に必要な業務に注力できるのでは。

答　校内清掃は生徒が働くことの大切さを学ぶ等貴重な機会と捉えている。テストの採点ではデジタル採点ソフトの導入等により教員の負担軽減を図っており、今後も学校における働き方改革を進めていく。

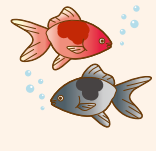


問　小中連携について、小学生と中学生の交流が少なく関係が浅いと感じる。「小中の壁」を壊す取り組みとして小中連携校に限らず、日常的に小学生と中学生の一人ひとりが交流できる機会を増やしては。

答　江戸川区小中連携教育方針のもと中学生による小学生への読み聞かせ活動や教員同士の交流等、先進的で効果的な取り組みや好事例を区内の小中学校に広く紹介する等、小中連携の取り組みを進めていく。

問　外国人との交流や異文化共生について。
①多くの区民にとって外国人との交流や異文化共生を肌で感じる場面は少ないのではないかと考える。子どもから大人まで全ての人が参加できる国際交流の場をつくっては。
②学校で外国人生徒に壁を感じる場面や、ホームステイ等の取り組みに参加する人は少なく、学校内の交流には課題があると考える。小中学校で外国人との交流や異文化について学ぶ学習の時間をつくっては。
③年齢や国籍に関係なく誰もが参加できる多文化交流イベントを増やしては。また、やさしい日本語や英語での案内表示、相談窓口に通訳を配置する等、外国人にとって暮らしやすい環境づくりを。

答　①多文化共生センターをタワーホール船堀に開設し日本語交流会等を開催している。交流の場を増やし、多国籍料理教室等切り口を変えながら多くの方に参加してもらえるよう国際交流の場を設けたい。
②交流学習を行う学校の取り組みを紹介する等、多くの児童・生徒が多様な文化に触れ、共生社会の担い手を育てる教育活動を広めたい。
③より多くの国際交流イベントの開催に向けて取り組みたい。案内板の多言語化や、やさしい日本語研修の受講、外国人対応が多い窓口には多言語通訳サービスを導入する等対応の向上に努めている。



問　金魚をはじめ本区の伝統ある文化をどのように守り広めていくのかが将来の本区の魅力を考えるうえで大切だと考える。商店街や地域イベントとの連携によって金魚の魅力を発信する場を増やしては。

答　区施設等に金魚の水槽を常設展示し、泳ぐ金魚を目にする機会を増やす取り組みを始めている。商店街をはじめ様々な機会に金魚のＰＲを企画し「江戸川区といえば金魚」のイメージ定着に取り組みたい。

区議会ホームページもご覧ください

区議会ホームページには、これまでの江戸川区ＳＤＧｓ中学生議会の活動について掲載しています。より詳細な中学生議会の各地区の質問と答弁の記録もありますので、右記のQRコードからぜひご覧ください。

第３地区

問　若年層と比べると、高年齢層にはＳＤＧｓがあまり浸透していないように感じる。ＳＤＧｓに繋がる資源回収の取り組みを、自分の学校だけでなく区立の小中学校や施設等で実施することや、幅広い層へのＳＤＧｓを周知することについて区長と教育長の考えを。

答　区では古紙等の資源回収に加えて子ども服の譲渡イベント等を行っており、小学校では上履き等の回収、中学校ではＰＴＡ主体で制服等の回収を行っている。ＳＤＧｓの周知は関連事業を集中的に実施する期間の設定やＳＤＧｓえどがわ１０の行動を掲げる等、様々な機会を通じて幅広い層が取り組めるように行っている。学校での啓発ポスター掲示を含めて様々な媒体を通じたＰＲにより、機運醸成に努める。

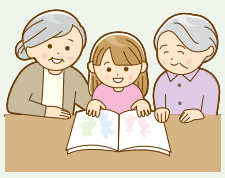
問　食品ロス削減のため過去に区が実施していた江戸川区食品ロス削減マッチングサービス「タベくるん」のような取り組みやＳＮＳの活用等の取り組みを。今後、食品ロス削減対策をどのように進めるのか。

答　江戸川区食品ロス削減推進計画を策定して削減目標を掲げている。削減に向けてえどがわ食べきり推進運動を実施し、ＳＮＳ等の様々な媒体で周知しているほか、食品関連事業者等と江戸川区食品ロス削減推進会議を開催して議論もしている。区民・事業者と連携した取り組みを一層進めて食品ロス削減を目指していく。

問　ごみのポイ捨てに関して外国人でも分かりやすいポスター掲示やポイ捨て防止の啓発活動、清掃活動の強化、ごみ箱の増設等を進めるべきと考える。どのように対策を進めていくのか区長の所見を。

答　ポイ捨て対策では 図や英語表示入りの看板等を設置しており、やさしい日本語を活用する等、誰にも伝わる工夫をしていく。以前は公共のごみ箱を設置していたが家庭ごみで溢れたため撤去している。現在はマナー向上の啓発や清掃用具と回収ごみを収納する「ちょこ美化ボックス」設置等に取り組んでいる。今後も効果的な対策を検討する。

問　本区が安心して暮らせるまちとなるためには年齢層に合った施設や様々な工夫が大切である。年齢層に合った施設を整え、そこで多世代が自然に集まれるような工夫を行うことで多世代交流が生まれると考える。年齢層に合った施設と多世代交流促進について区長の所見を。



答　区では乳幼児と保護者が一緒に遊べる子育てひろばを、共育プラザや健康サポートセンターといった地域の方が利用する公共施設内に設置しているところもあり、多世代交流を促すきっかけになっている。建て替え時期を迎える公共施設の複合化が必要と考えており、今後も「ともに生きるまち」を目指してまちづくりを進める。

問　スーパー堤防の建設に伴い公園の緑地面積が減ってしまったが、スーパー堤防完成後の緑はどうなるのか。また緑を増やすためにも、住宅街に点在する空き地を利用して木を育てる等、住宅と自然がバランス良く配置されたまちになるようにと考えるが区長の所見を。

答　工事中のため公園の緑地面積は一時的に減っているが、まちづくりとともにこれまで以上にみどり豊かな地域に生まれ変わる。区は「ゆたかな心、地にみどり」を合言葉に緑化運動を推進し、令和４年に樹木数が区民一人あたり１０本を達成した。公園については公園用地に利用できる土地を探し、区民が身近に利用できる公園の整備を進める。

問　外国人や障害者への差別や偏見をなくすため、アプリやオンラインゲームを活用して気軽に話ができる機会を増やす活動を通じて、理解や支援、協働を促すことについて区の考えを。

答　ともに生きるまちを目指す条例に基づき多文化共生や障害者の理解促進に関する条例を制定した。障害者への理解啓発では区ホームページに条例への思いを掲載し区内障害者施設で誰でも参加できるおまつりや障害者と体験活動を行うイベントを実施している。外国人との交流では多文化共生センターで日本語交流会等を開催した。障害者や外国人も分け隔てなく同じイベントで楽しめることが理想であり、アプリやゲームの活用を含め交流を増やせるよう今後も取り組む。

第４地区

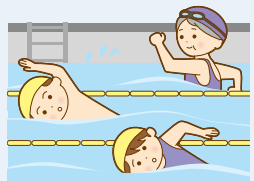
問　小岩地区にはスポーツ施設が少なく、利用したい時には遠くの施設まで行かなければならず負担が大きい。コミュニティ活性化等に寄与するスポーツセンター等について施設や空き地のスペースを再利用し小岩地区に新しく整備を。

答　区が策定する文化・スポーツ基本構想では地域バランス を考えた施設配置について記載しているが、新施設の整備には用地確保やコストの課題があるため、既存施設の活用も含めて検討する。また将来に向けてプロチームや大規模イベント等に使用できる施設も検討している。今後も身近な場所でスポーツができる環境整備に取り組んでいく。

問　近隣にバスケットボールができる場所が少ないため、スポーツ施設における他競技のスペースをバスケットボール用へ変更することや、スポーツセンターのバスケットボール場の利用時間延長を。

答　バスケットボールの練習環境確保は必要と考えており、スポーツセンターの利用時間見直しは運営状況やニーズを確認し多くの人が利用できる方法を検討する。ご提案の内容を参考に、関係部署と連携しながら身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりを検討する。

問　小岩地区に遊べるプール施設がない。学校プールを夏休み期間に開放することや空き地等を活用してプールを増設することで、幅広い年代が健康に繋がる運動や楽しみのために活用できると考えるが。



答　暑さで屋外プール利用が難しくなる中、通年利用可能な屋内温水プールの整備を検討している。公共施設再編・整備計画や学校プール整備方針に基づき、老朽化した施設の建て替えや学校改築時には近隣の学校と共同利用できる室内温水プールを設置し地域開放等も検討している。安全に身近な場所で気軽に水に親しめる環境づくりを進める。

問　共育プラザについて入退館時のカード提示等に手間がかかる。退館時に名前を言わずに帰る利用者等の問題も発生しており、利用者の利便性と職員の効率を上げるためにもデジタルスキャンを導入しては。

答　共育プラザは第三の居場所として子どもから大人まで親しまれている。入館時のカード提示は入退館の記録だけでなく職員と利用者の大切な交流機会であるが、手間がかかるという面もあるためデジタルスキャン導入や登録カードの必要性も含めてより良い方法を検討する。

問　老朽化した共育プラザの改装時に子ども連れの保護者の負担軽減に資するエレベーターや障害者のためのスロープを設置しては。また利用者から飲食スペース充実 等、より行きたくなる空間にするための提案もあることから普段利用している方々の意見を取り入れてほしい。

答　共育プラザは建物老朽化等の課題があるため改修時には多世代が利用できるユニバーサルデザイン施設への転換を図りスロープやエレベーター等の整備を進める。地域のあらゆる人が安心できる場所となるよう工事前には利用者等の意見を伺い施設整備に計画的に取り組む。

問　学校での部活動に関して、教員のやりがい搾取とも言える現状を変え、適切な部活動指導により子ども達を守るため、部活動指導の負担軽減や特別な手当、休暇支給等の補助やルール作りが必要と考えるが。

答　教員の勤務時間が長い要因の一つとされる部活動について地域移行を進めており、スポーツ協会等と連携し地域人材等を活用した事例がある。生徒の気持ちに寄り添う指導に取り組み、教員の負担軽減と生徒が意欲的に活動できる部活動を目指し、仕組みの整理等に努める。

問　授業の大半が雑談になる等、一部の教員の授業や部活動への取り組み方に対して生徒から不満を聞く。各学校の教員にアンケートを実施する等、教育委員会が学校の状況の把握と調査を。

答　教員の言動で生徒の意欲が損なわれることはあってはならない。生徒からの率直な意見は教育環境改善に貴重であり、校長会等を通じて各学校の授業や部活動の指導徹底を確認していく。教員の資質・能力向上は教育の質の向上に欠かせないことから、授業力や人間性を高める研修の充実等に積極的に取り組み、より良い学校づくりに努める。

半年 SDGs中学生議会開催まで

4月23日
第一回実行委員会
※その後、SDGs中学生議会本番までに、9月17日・10月30日の計３回実施しました。

SDGs中学生議会の開催を目指し江戸川区SDGs議員連盟から選出された区議会議員、中学校の先生方、国連の友Asia-Pacific等の方々による実行委員会を立ち上げ、実施内容の調整を始めました。

6月7日
全体勉強会

各学校から選出された中学生達が集まり、区が推進するSDGsの取り組みや区議会の役割について学びました。その後には各グループでの初顔合わせを経て、和やかな雰囲気の中、自己紹介とともに今後のグループワークの日程を決めていきました。

7月6日～
各グループワーク

各グループは夏休み等を活用して、精力的にグループワークを重ねました。各地区を担当する区議会議員とともに中学生議員達は活発に意見を交換し質問内容を整理しながら本番に向けた準備を着実に進めていきました。

10月19日
リハーサル

議場での本番に備えリハーサルを行いました。中学生議員が議長と副議長として議事を進行し全体を通して本番の動きを確認しました。

11月8日
SDGs中学生議会
本番！

SDGs中学生議会がついに本番を迎えました。中学生議員達は緊張感に満ちた表情を浮かべながらも半年間の準備の成果を存分に発揮し、堂々と区長へ自らの思いを届けていました。

SDGs中学生議会を終えて

SDGs中学生議会を終えた中学生達にアンケートを実施し、感想や意見を聞きました。ここではアンケートの一部を紹介します。

- 自分の意見を人前で話せた経験は、自身の成長や自信に繋がりました。
- 区長さんに直接質問ができ、議員さんと江戸川区について意見を交わせる貴重な機会でした。
- SDGsについて考える良い機会になりました。この経験を未来で活かしたいです。
- グループでの話し合いや議場での体験によって江戸川区について理解が深まりました。
- 議会を身近に感じ、政治への興味や理解を深めることができました。